



大綿画日新聞第
一八号

明治八年五月東京浅草
の宿丁美配人庄兵工の目所質商
相摸屋音次郎の店行き或る家より質品
見て貰ふなりと云ふ事あり音次郎は金百円を
用意し同道より人の暴悪の事と橋場の
總泉寺前より庄兵工の刀を白刃を以て
無二無三逆縁あり百円と音次郎の咽喉を
突くキマツと斗ひ一物音を巡査が聞つら
直ちに捕き音身
に存命覚つ
世の目
天の網目のあら
をふ滅を悲し
九十八号ニ出たり

文花堂
あはれ

新編
手帳
全

富士愛板
所
長板